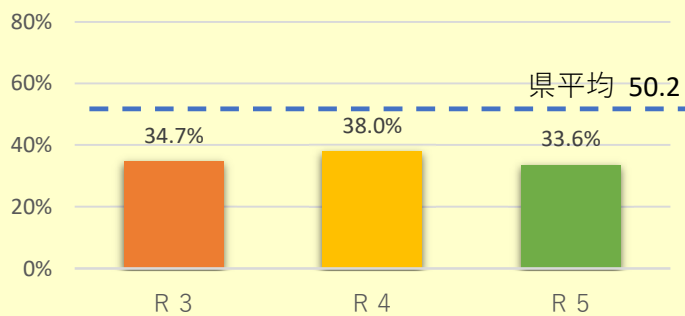
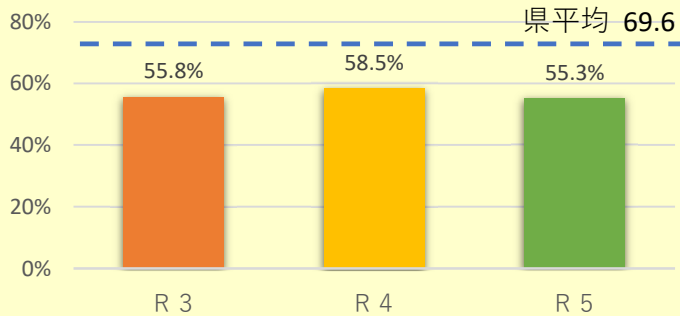


◆超過勤務等の現状

小学校における45時間超の教員の割合



中学校における45時間超の教員の割合



◎図A、Bは、ICカード導入(R3)から3年間の前期(4月~9月)における、45時間以上の超過勤務の教員の割合を示したグラフである。県平均より10%以上低いのは、校務支援システムや留守応答電話などを、他市町に先駆け導入し、一定の成果が表れた結果と考えている。年次ごとの経過を見てみると、わずかな減少傾向にあるものの、高止まり傾向にある。

成果目標【指標】 大津市教育振興基本計画及び大津市教育大綱より



令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校：30時間 中学校：41時間	小学校：28.5時間 中学校：39時間	小学校：27時間 中学校：37時間	小学校：25.5時間 中学校：35時間	小学校：24時間 中学校：33時間
<b>教職員の在職等時間の減少(全教職員の月平均時間外在職等時間数の削減)</b> ※令和元年度 小学校：月平均31.5時間 中学校：月平均43時間 (小学校・中学校ともに毎年5%の削減を目標とする。小学校-1.5時間 中学校-2時間)				
小学校：28.84時間 中学校：36.55時間	小学校：36.27時間 中学校：43.48時間	小学校：35.22時間 中学校：43.25時間		
<b>ICカード導入</b>				

◎図Cは大津市が掲げる成果目標であり、小中学校のそれぞれの数字は年間の月平均超過勤務時間を表す。R3にはICカード導入による客観的把握に伴う増加がみられる。目標には到達しておらず、継続するところは継続し、見直すところは見直す改革を、学校と市とがそれぞれの立場で力強く進めていく必要がある。

ストレスチェックの結果 (R3~R5)



	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
対象者数	1902人	1894人	1877人	1857人	1854人
受検者数 (受験割合)	1635人 (85.96%)	1729人 (91.29%)	1818人 (96.86%)	1787人 (96.23%)	1773人 (95.63%)
高ストレス判定者数 (高ストレス者割合)	153人 (9.36%)	158人 (9.14%)	182人 (10.01%)	230人 (12.87%)	222人 (12.57%)
	夏季休業中に実施			6月、7月に実施	

◎図Dは市内小中学校教員のストレスチェックの結果である。年度を重ねる毎に受検者が増加し、定着が進んでいる。R3年度までは夏季休業中、R4年度より6,7月と実施時期に変更があった。そのため、高ストレス者が増加した可能性があり、今後の経年変化を注視する必要がある。

取組の4つのポイント

勤務時間の適正管理と健康の保持増進

- ・ICカードによる出退勤管理システムの導入
- ・教員の業務量の管理等に関する規則の制定
- ・定時退校日(ノー残業デー)の設定
- ・長期休業中における学校閉校日の設定
- ・ストレスチェック業務の実施
- ・産業医の配置 ・長時間勤務者に対する医師面談

部活動指導の改善

- ・週2日の休養日の設定
- ・部活動指導員の配置
- ・外部指導者の活用
- ・部活動地域移行の検討

校務等業務の改善と事務機能の強化

- ・校務支援システムの導入
- ・留守応答電話の運用
- ・学校給食費の公会計導入
- ・職員会議等の効率化
- ・学校事務の共同実施(地域マネジメント支援室)の推進
- ・研修の実施方法(Web等)や精選

外部人材の活用

- ・スクールカウンセラーの配置
- ・スクールソーシャルワーカーの配置
- ・スクールロイヤーの配置
- ・顧問弁護士による法律相談の実施
- ・学校生活支援員の配置
- ・スクールサポートスタッフの配置

## ◆これまでの取組

H26 校務支援システム導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績管理、小中間の児童生徒データ移行スケジュール管理、市内教員とのメール機能など</li> <li>・R7校務支援システム更新予定</li> </ul>
H29 大津市働き方改革推進委員会設置	年3回開催
H30 留守応答電話の運用開始	留守応答開始時間 小学校18：00 中学校18：00、18：30、19：00の三段階
R1 スクールサポートスタッフの配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R1年4月【3校配置】→R2年4月【6校配置】</li> <li>・R2年9月からコロナ対策【54校配置】</li> <li>・コロナ以降も【54校配置継続】</li> </ul> ※印刷業務を中心に各校で有効活用中
R2 ICカードによる勤怠管理システム導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入後、客観的な把握が可能に。</li> <li>・Excelにデータが出力できる。</li> </ul>
R4 中学校部活動地域移行検討懇話会の開催	主に土日の地域移行に向けた検討
R4 電子メール・通知文書等、文書管理ルールの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送信メールの文面の統一</li> <li>・文書分類番号の統一 など</li> </ul>
R5 連絡用通信アプリの導入開始	以下のような機能を持つ通信用アプリ <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の出欠管理 →朝の欠席連絡が激減</li> <li>・通信配布 →印刷による紙代・時間を大幅削減</li> <li>・学校からの連絡 →全体、クラス、部活など送信相手を自由に設定可能。緊急連絡にも有効</li> </ul>

## ◆令和5年度働き方改革推進委員会で検討していること

### ①朝の登校時間・部活動終了時間などの設定に係る調査・検討

→モデル校などで登校時間を早める実験的運用や、各校の登校・開錠の時間を調査中。

### ②教員が必ずしもする必要のない業務に対する外部人材などサポート体制の検討

### ③保護者・地域への理解協力を得るためのリーフレット等の作成

→素案作成中。12月に素案が完成し、R6年度初め発行に向けて市教委内や関係各所と調整を進める予定。

### ④教職員へ働き方改革の状況などについて定期的な情報発信

→働き方改革ニュースとして、市内教職員に校務支援システムの掲示板で配布開始。

(参考 第1回…8月23日 第2回…11月2日 第3回…12月27日予定)